

自分がこういう生き方したいっていうのを将来の夢とか職業とかに当て込んで込んでいいんじゃないかなと思います。人生の中で勤める時間が一番長いし

語り手 中西 泰輝（高校三期生 銀行員） 聞き手 井用 あかり

*

―立守が今年で二〇周年なんです。それで、未来に残していける、簡単に言ったら歴史書みたいなのを作るためにお話を聞きます。

はい、OG、OB、卒業生の人たちのね。

―はい。立守に通ってたときの話を聞いて、歴史書に残していこうっていうのが、今回のインタビュなんですけど。私が基本的に質問していくので、それをベースに答えてもらうのが基本です。よろしくお願いします。自由に思い出したこととかをいっぱい話してもらって、盛り上がって楽しめたらいいなって思ってます。

よろしくお願いします。

*

中学から高校入学まで

―最初の質問なんですけど、中西さんは立守三期生ですよ。三期生ってことは開校三年目で、歴史もまだ浅い。その段階で立守に入学しようって決めた理由はなんですか？

ほんまのこと言うと、家が近いから。ごめんなさい。家が近くて、正直立守に受かるぐらいの学力ではなかったけれど、家近いし、受かったらラッキーやなど。大学にスライドで行けるっていうメリットもあるし。

―わかります。このメリットは結構大きい。

大学受験すんのもしんどいしなと思って、受けた。ありがたいこと

に受かったし行っちゃったっていうのが本音かな。ただ、入学してみたら立守の良さみたいなのが色々あると感じて、すごいいい高校やなって今でも思う。受ける人がいるんやったらどんどん受けたらいいって推してる。まあ当時は中学生やし、絶対こんな大人になりたいとかもなかったな。「家が近い」、「大学まで行ける」、「校舎もきれいそう」、「設備も整ってそう」っていう、ほんまにシンプルな理由で決めた感じです。

―中西さんは守山市在住ですよ。

そうそう。

―近いのもメリットとしてでかいですよ。それで、立命館守山になる前って守山女子高校みたいな高校やっただけですよ。

そうですね。

―急に高校が変わって、最初から結構人気やったんですか？

まだ僕も中一だったんであんまりわからなかったです。僕は三期生でしたが、二期生の方々が受けた時は結構倍率が高くて、その倍率でいくと僕絶対受からへんな。けど何があるかわからへんし、と思って受けたな。二期生が結構倍率高かったからみんな控えたのか、僕の代は倍率が低くて、トータルで一・五倍ぐらいしかなかったんじゃないですか？専願が〇・八とか〇・九とかかな。

―割と倍率に波があったんですね。

そうそう。立守って中高大一貫教育の学校やから、普通に勉強してたら立命館大学は行けるじゃないですか。今は外部受験するコースがあるじゃないですか。僕らの時はなくて、みんな立命館大学に上がるのが一般的やったんすよ。別に僕も外部受験するつもりなかったんで、それなら受験のための勉強じゃなくて、純粋に生きるための力に

なる勉強ができたらいなと思ったんです。立守がそれを結構重視してるじゃないですか。それがすごいいいなと思って。で、今仕事でも立守と関わらせてもらうことがたまにあつて、田辺先生とかに色々話を聞いてると、僕らの時よりもよりそれを強化しててすごい学校やなと思います。社会人になって、学力があつても、まあ学力高いことに越したことないですけど、それだけあつてもやっぱり生きていけへんし。なので、勉強以外の学びをさせてもらえて、すごい良い高校やなつて思ったかな。

—わかります。生きる力を育てるのがいいなと思って私も入学決めたくらい。

例えば人前で喋ることも結構あるじゃないですか。そういうことが、きつと今後力になっていくんじゃないかなと思う。当時僕もそういうの得意じゃないし、嫌やなとか思ったけど、せっかく受験が必要のない高校に入学したんやから、受験のための勉強でなくてもいいんじゃないかと思えますね。社会人になったら、数学とかの勉強で大して必要ないなつて思うので、立守の学びの考え方はすごい。学力も大事やけど、生きる力というか、潜在能力を引き出そうとするのは、すごいいいと思います。

—いや、そうなんですよ。英語でめっちゃプレゼンしたりとか、逆にテスト全然なかったりとかして、

やつぱりそうなんや。昔は普通にテストもあつたけど、もうすごい尖つてたなつて。今思うと。一つやるにしても自分で考えなさいみたいなスタイルじゃないですか。で、社会人になったら基本自分で考えないといけないんですよ。今、日本の学校教育的には、特に日本人はこれをやりなさい、点数高かったら素晴らしいみたいな感じなんで

す。ほんととはゴールがあるけど、それに対してどうやっていくかを自分で考えてやっていかないといけない。そういう能力が立守でついて、今後の糧になるというか、アレルギーが出にくくなる、人としての力が身につくんじゃなかったって思います。

—なるほど。ほんまに大事なことで学ばせてもらってるんですね、私。

それでいうと、このインタビュも先生が生徒に考えさせてやらせるっていうスタンスやんな。それでやりたい！って言つて手を挙げる人がいっぱいいるやんか。それがすごいなと思って。

—ほんまにそうなんです。一つの活動するにも定員が設けられて、一応これも、定員から溢れへんように、みんながミッションが配信される時間ピッタリにフォームを送るんです。ほんまにライブのチケット応募みたいな感じで（笑）。

—すごいよな。それつてすごいいい環境やんか。やりたくないことはやらなくてもいいと思うけど。色んなこと、楽しいと思うこと積極的にやった方がいいと思う。人生楽な方に流れたら損やしな。

—めっちゃ楽しんでやらせてもらってるのでありがたいです。これからも頑張ります。

*

テニスに打ち込んだ学生時代

—中西さんは中学校では、軟式テニス部、高校では硬式テニス部ですよ。テニスはいつから始めはったんですか？

テニスは小学校から習つてて、硬式テニスを。めちゃくちゃガンガンやってたつてわけでもなくて、中学校でもやるかどうか迷つてたし、最初は軟式テニスじゃなく、陸上部入ろうかなと思つてた。でも、せっかくなら中学で部活に打ち込もうかなみたいな感じで。硬

式やってたけど、硬式やめて、軟式テニスやったら面白いなと思って。高校でも硬式テニスか軟式テニスかすごく悩んだかな。

—そうなんですね。硬式と軟式ってどんなところが違うんですか。

まあ、ボールの種類とか打った感じは違う。硬式の方が間違いなく人口は多い。生涯スポーツと言われているので、おじいちゃんになってもやりやすいと思います。軟式の方が初速が早いんですよ。だから、どっちかっていうとおじいちゃんからしたら追いつきやすいってのはあるかな。

—なるほど。それで、中西さん自身も県大会で二位だったんですよ。

うん、先輩がいて、小学校スクール時代から知ってるその人は硬式やってはって。まあちっちゃい頃からの知り合いで友達みたいな感じやったけど、立守に入学して、自分にも硬式入ろうやと言ってくれた。一緒にダブルス組んだけど、一年生の冬の大会で二人ともすごく調子良かったので、県二位になった。

—めっちゃくちゃすごいですね。

まあまあ、一回きりやけどね。いい思い出やなと思いますけど。

—めっちゃめっちゃすごいです。もう一個気になったんが（事前に用意されていた語り手の紹介の用紙を見て）、なんで二年からコートなくなっただんですか？

ここ（立守の隣）にコートが六面あったんよ、入学した時。僕らの時中学テニス部がなかったんかな、だから練習でかぶるとかいいうことがなくて。で、六面を女子と男子で使うんで、三面使えるじゃないですか。

ここ、近隣に住宅があるんですよ。騒音の苦情が日頃から出てたか

ら、ちよūd上の先輩が引退するそのちよūtと前ぐらいに、ついに使えなくなっちゃって。だから六面あったのが三面になったんですよ。今ここ（立守の中）綺麗なテニスコートあるじゃないですか。それが出来たのが三年の始まりで、それまでなくて。だからちよūtとバス乗って近くの練習場行くとか、そういう練習の仕方やったんで、環境としては悪かったなって思います。

—環境ってめっちゃくちゃ大事ですよ。一つで結果全然変わってくる。それで今はテニスは続けていらっしやるんですか？

今も遊び程度で、レジャーテニスを。ちよろつと試合出るとか、そんなぐらいですね。

—社会人の方も試合あるんですね。

社会人テニスのリーグ戦みたいのがあるんすよ、滋賀県に。そのチームでは毎年リーグ戦があるんで、そのリーグ戦に出て、あとはそのメンバーとかで練習したりとか、呼んでくれる人と練習したりとか、そんなぐらいです。

*

続く立守との関わり

僕の頃は三年のときに卒論を書くっていうのがあったんですけど、今は課外活動なんですよね。

—そうですそうです。共創探究っていう授業があって、それでいろんな自分の興味あるところに課外活動行ったりしてます。

僕、会社でそれのお手伝いをたまにやって、だから、去年の一月頃に、メディアホール？そこでの発表に審査員で行ったな。

—えーそうなんですか！めっちゃすごい。

なんか、田辺先生が呼んでくれはって。いやいや、僕なんかでいい

んですか、みたいな。そんな大した力になりませんけどって思ってた（笑）。

—いやいやいや、すごい。じゃあ、今も結構立守に関わってくださってるんですね。

最近だけです。僕、今いる会社が守山の支店で、立守から依頼の連絡が来たとき、いや僕立守出身ですけどみたいな話をしたら、その通話相手が田辺先生で。それで、学校に行くようになった。

こんなことを調べたい、事業者さんで手伝ってくれたり、協力してくれたりする人いませんかみたいな要望を投げかけてくれるので、僕らが紹介しているお客さんを紹介してるって感じかな。なんか前は、クッキー作るとかで、焼き菓子売ってるお客さんに手伝ってもらって、一緒にここ（立守）来て、焼き菓子作ってはったな。

—中西さんは金融系のお仕事って認識してたんですけど、そんなこともしはるんですね。

金融系っていうよりは、うちの会社が、地域活性化とか、地域との繋がりをすごく大事にしてるので、学生が悩んでることがあったら相談してくれはってもできるだけ手伝うよみたいなスタンスでね。田辺先生に聞いてたら、そういうのを聞ける窓口の一つにうちの会社を入れてくれてはって。突然メール（依頼の）がピュッて届く、みたいな感じやな。

—私もお世話になるかも。
いつでもいつでも。この間もそれこそ発表会とか行ったけど、レベル高すぎ。

—めっちゃレベル高いですほんまに。

やっぱすごいなと思つて。僕がやるよりはるかにすごいこと絶対や

ってはるし。もうすごいしか言葉が出ない。やのに、なんか質問してくださいとか、気になること言ってくださいって言われてもいやいやみたいな、もう絞り出すしかないんやけどみたいな、きつつみたいな感じでしたけど（笑）。自分で考えなさいっていうスタンスの良さっていうか、その時にその人らしさが絶対出てる。発表の内容とか、言ってることとか、話し方で、この人の人柄みたいなんが伝わってくるのがすごくいいなって思います。

みんな一緒やったらね、面白くないし、みんな違って、みんな一番でいいと思うんやけど、投票せなあかんし、一番を決めなあかんけど、別にもうみんな一番でいいやんみたいな。

—みんな完成度高すぎて一番とか決めなくてもいいやんって思いますよね。ほんまに良い授業やと思います。探究って、まだ始まったばかりやけど。

めっちゃいいと思います。絶対生きてくるというか。それをやる過程にすごくこう、努力があるはずやから。やるならちゃんとやった方がいいと思う。

—はい、頑張ります。

せっかくそれをやるんやったら、絶対真剣にやった方が、立守の生徒っていう肩書があるから受け入れてもらいやすい。突然、中西（語り手）という人間が会社に訪問してこれを教えてくださいとか言われても、向こう何のメリットもないから絶対相手してくれへんけど、立守の人っていうのがあるから有利にもなるよね。

—そうですよね。頑張ります。

頑張ってください。

大学から就職まで

―今、共創探究の授業とか、色々将来のこととかも考えなあかんようになったなと思っただんですけど、何年生ぐらいから考えてましたか色々、将来のこと。

将来のことは、恥ずかしながら、就職活動するまで考えてなかった。面白いことしたいなみたいなのはあつて。僕らの時には、そういう共創探究とかなかったからね。田辺先生と喋ってたら、三年生の時にやる共創探究は、何か学部につなぐとか、将来の考えにつなぐっていいなって思いがあるって言うてはったんで、すごいいいなと思った。

当時、そんなもないしやりたいことも特になくて、面白いかどうかで生きていこうと。自分が面白そうやなって思うことやつてたら、きつとなんかやりたいこと見つかるやろ、みたいな感じで僕はスポ健（立命館大学スポーツ健康科学部）に行った。当時僕スポ健二期生なんですけど、出来て二年。新しいから面白いんちゃうかってただそれだけで。スポーツは好きやしなつて。形がなくて、多分僕らがモデルになつてつて、こうやっていけばいいんやみたいな作られていくはずやから、面白そうやし、それでいいかみたいな感じで学部はスポ健に決めました。

―色々結構自由やった感じなんですか？

そうそう自由で、別に勉強しても絶対これになりたいとかって別になくて、どうしようみたいな感じになつて就活して、今こうやって働いてるけど。石の上にも三年じゃないですけど、やりたいことやするために、その会社の基礎のこと知ってへんと、上積みになりたいことがあるはずなんで、ここでやめちゃうともうどこ行っても続かへ

んというか、そやったらベンチャー企業に行ってくださいみたいな話になつてくるから。

うちの会社、どっちかっていうと自由度高いんですよ。こんなやりたいて。会社の事業型があるんで、いきなりじゃあ、ドーナツ売りたいですとか言われても僕らできひんけど、その事業内容としてこんなことやりたいみたいなのは結構自分から発信してやっていける会社なんですよ。

―うんうんうん。

結局、どういう会社なんかが一番重要なんちゃうかって思つて。絶対この業種がいいってこだわつてる人はそれだと思ふんですけど、こだわつてないんだとしたら、なんか自分がこういう生き方したいっていうのを将来の夢とか職業とかに当て込んでいてもいいんちゃうかなと思います。人生の中で勤める時間が一番長いし。

―うんうんうん。今の話めっちゃ刺さりました。将来のこととかめっちゃ迷つてたんですけど。

難しいな。難しい。でも、やりたいことを全力でやるのがいいと思います。やりたいことやするために嫌なことやって、仕事したらほんまに九割以上嫌なことしかないしね。あとの一割弱に喜びがあるから、それにどどん価値が生まれるというか。とにかく頑張ってください。

―頑張ります！

【感想】

語り手のお話から開校から間もない立命館守山高校の様子を詳しく知る事ができ、立守の歴史を感じられた。また立守での学びは社会に出て活かされるという話もあって、立守ならではの探究やカリキュラムの良さが改めてわかった。私自身将来どんなことをしたいか、大学ではどの学部に行くか迷っていることが多かったが「楽しい、やりたいたいと思う方に進んでもいい」という言葉をもらい、とても勇気づけられた。



右：語り手 中西 泰輝さん

左：聞き手 井用 あかり